

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500309		
法人名	有限会社スピリッツ		
事業所名	グループホーム 淳厚苑		
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和1年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人のペースで生活ができ、自分の個性を出せている。 ・ホームでの生活で自分の場所が笑顔となり、生活改善ができ、家族も来られ安心してきている。 ・職員も利用者も自分のしたい事は出来る場であり、家族同様の生活ができています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「利用者のやりたい事、好きな事が実現出来るホーム」と管理者が長所の一つに挙げられるように、今までその人がやってきた事、得意な事、趣味等を本人や家族に聞き、思いや希望がどうしたら実現出来るか、日々職員間でよく話し合っている。男性利用者のAさんは「ここがいいから、ここにいる」と言い、家族が面会に来ると「また来んちゃいなあ」と、すっかりホームが自分の家になっている。個々の自主性を大切にし、「心のケア」を重視しているそんな温かい雰囲気があるからこそ、Aさんだけでなく「我が家」と思っている人が多いのも頷ける。ホームの理念である「真心中で家族の味わい」が日々の生活に溶け込んで実践出来ている証拠だろう。お昼前に隣の特定施設「淳厚苑」に展示されている作品を利用者と一緒に見せてもらいに行ったが、自作品を説明してくれるBさん、Cさん、Dさんの顔が生き生きと輝き自信に溢れているの見て、日頃のホームの取り組みを実感した。これからも頑張ってください。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入口に手作り理念を掲げ、毎日共有し、理念に近づけるよう努めている。	布で手作りした温かみのあるこのホームの理念「真心で家族の味わい」の作品がいつもリビングに掲示されている。その言葉通り、毎年様々なテーマでの作品作りを楽しみ、利用者・職員が家族のような付き合いをして、利用者の笑顔の中に職員が生きがいを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ホームを知ってもらう為、お祭り、加茂郷フルマラソン、文化祭、催し物などへ参加し地域の方や観客などと交流している。	小学校の運動会では「招待席」が設けてあり、毎回楽しみにしている人もいるし、恒例になっている加茂町の文化祭の見学時には地域の人との格好の交流の場となっている。毎年行っている保育園・幼稚園への卒園プレゼント贈呈は世代間交流として定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域ケア会議を利用し、知識を活かし支援方法、対応の仕方を広報している。 ・作品作りをし、生きがいを持ち、地域の人々と交流の場を持つ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・防災訓練に実際参加してもらう。 ・現在起こっている問題を事前に報告し話し合っている。 ・家族や利用者の方が出来るだけ参加できるように声掛けを行っている。	毎回、行政、地域、家族等の多彩なメンバーが参加して運営推進会議を開催しており、同法人の特定施設と合同で直面する様々な議題を話し合っている。市の職員から防災講話を聞いた時には参加した4名の利用者からの意見等もあった。	運営推進会議は定期的きちんと開催されているが、記録が乏しく議事録という形式にはなっていない。参加者からの質疑応答や意見等を記録し、今後のサービス向上に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域ケア会議に参加し、市・各事業所と連携を取っている。 ・常に相談しながら協力を築いている。	市の担当者とは2ヶ月に1回は顔を合わせる機会があり、情報提供を受けたり運営に関しての相談をする事もある。3月には集団指導に参加した。生活保護受給者の事で相談したり、何かあると担当者と連携を取り合うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関は常に解放し、いつでも行き来できるようにする。 ・徘徊する人には寄り添うようにケアを行っている。	「山に行く」と言って外に出る人には、その思いに寄り添いホーム周辺を散歩して気分転換をしてもらっている。定期的に研修をして職員は何が身体拘束に当たるのかよく熟知しており、言葉の抑止にも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、会議でマニュアルをもとに話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・重度化に伴い、次のサービス利用につなげるよう支援している。 ・現在、制度利用の方がおられないが、学ぶ機会をもちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・運営推進会議や個別での説明をしている。不安や疑問等をお聞きしご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議での意見は職員会議において職員に伝え、運営に反映させている。 ・家族の意見は申し送りしながら、記録に入れながら全員に伝えて反映させている。	近隣の利用者が多く、家族の面会も多いので直接話し合う機会が多い。不定期に新聞を発行して生活の様子等近況報告をしているが、必要に応じて面会時や電話等で随時連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議(全員参加)や毎日のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合って即反映させている。	職員会議には毎回、前管理者でもあった統括責任者の参加もあり、運営に関する議題を検討したり、ケアカンファレンスを行って意見交換をしている。若い管理者の指導力に加え、ベテランの職員達との連携や相互の協力体制もよく出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。 ・交付金の支給により職員のやりがいを見つめる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。 ・実践の中にアドバイスを入れながら実施している。 ・施設内研修を月1回取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1対1で対応し、一人ではないという事に気付いてもらい、信頼を得るように努めている。 ・そばに寄り添い話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居申し込み時や、手続き時に家族の思いや要望を聞き、相談しながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困っていることを優先しながらその時必要としている支援は何かを考えるようにしている。必要に応じ他のサービスの利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、出来ることをして協力し合える関係を保っている。(片付け、掃除、洗濯のため、料理手伝い等) ・利用者から教えてもらう事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と連携を取りながら、一緒に本人を支えて行ける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人の訪問を受け入れており、友人や近所の方が面会に来られている。	家族・親戚・友人等の面会はもとより、隣の「蓉厚苑」に入所している夫に会いに行き関係性を継続している人もいれば、長年交流が途絶えていた家族間の修復をして10数年ぶりに面会が実現した例もある。これまでの馴染みの場や関係継続に努めている。	家族等の面会が多いが、もっと地域の人にも来て欲しいと管理者は願い、そしてこの課題に取り組んでいるところなので、是非皆で知恵を出し合い、いろいろな工夫をして頑張ってください。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・会話しやすい雰囲気作りや、テーブルの席などを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・次のケアマネージャーさんへつなげ、訪問したり、入院先へ見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話をしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。 ・一人ずつ時間をかけて、会話が出来るようにしている。	自分の好きな事が出来る、今まで(昔)やってきた事を実現させる。その為に本人としっかり会話をして聞き出し、得意な事や趣味を家族からも聞くようにしている。そして思いや意向をプランに反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族からの聞き取りで把握している。 ・担当だったケアマネージャーさんや、家族から話を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。 ・全員が確認ノートに確認印を押している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月一回の会議や日々の工夫、家族の意見を取り入れ作成している。	ケアプランのニーズ(課題)・目標・サービス内容が本人・家族の思いや意向を反映した具体的で心理面・精神面を重視した内容になっている。利用者本位の生活の実現に向け、職員間でよく話し合っけてケアプランを作成し、「心のケア」に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・できること、出来ないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えている。 ・個人記録や申し送りノートを使用し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出したいときには外出したり、その時その時を大切にに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社参拝やカラオケ大会応援、町文化祭へ見学に行ったり、小学校運動会の見学も楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応できる。 ・専門科(精神科)受診も継続し、季節時変化に対応できるよう支援。 ・家族希望で独自受診を支援する。	このホームの一番の強みは、階段或いはエレベーターで階下の医院とつながっている事であり、受診や緊急時対応も万全で、日頃から主治医・看護師・介護職員との連携もよく取れている。他科受診は原則家族にお願いしているが、職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。 ・週に1回、看護師の訪問があるので、体調変化や気づきなどを報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。(利用者の状態は書面で渡す) ・1週間に1回見舞い、家族との話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・夜間時、職員が一人となる為対応できないので、家族と話し合い、協力を求め夜間付添が可能であれば、話し合っでの対応ができ支援可能である。 ・看取りも相談に応じている。	母体医院が同建物の階下にある為、緊急時でも即対応してもらえ、とても心強い。看取り介護加算もあり看取りの方針はあるが、重度化したり、医療が必要になった場合は殆ど入院となるケースが多い。しかしそれまでは出来る限りホームで支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内研修において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1回、総合訓練を実施している。職員会議において即対応できるように訓練している。 ・土砂災害、地震時の対応も考え意識づけをしている。	運営推進会議に併せて防災講話を聴いたり、家族に災害についてのアンケートを実施して、今後の防災に繋げようとしている。また、消防署立ち会いでの火災・避難訓練やJアラートを利用した訓練等にも取り組み、災害時に利用者の人数分の防災頭巾をリビングに常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。 ・入浴、排泄時には特にプライバシーに配慮した対応をしている。	男性用・女性用に分けてトイレマークはつけてあるが、トイレが並列している為、使用時にはドアを閉める、使用中であるかよく確認する等、プライバシーや羞恥心にも配慮をしている。また、自尊心を損ねないよう対応や言葉使いにも気を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃の会話の中で、本人の思いや希望を確認している。 ・会話を大切にし、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課にとらわれることなく本人の希望通り付添い、外出等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・今までも使ってきた物、好みの物を持ってきてもらうようにしている。 ・入浴前には、一緒に準備を行い好みの物を着るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・旬の食物(魚、野菜、果物等)の話をする。 ・楽しめるように目の前で調理したり、材料を切ったり皮を剥いたりして、意欲的に手を出せるよう工夫している。	食材は外部業者の配達であるが、毎食職員が手作りしており、利用者の希望を取り入れ、一緒に野菜のしょうやくや調理の下拵えをしながら五感で楽しんでもらっている。また、毎週金曜日は「料理の日」として利用者主体で料理を進めており、とても好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・野菜中心に栄養バランスを考えている。 ・水分がとりにくい方には、声掛けや味を変えるなど工夫し、必要な量がとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、声掛けをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にてパターンを共有し、利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	トイレが自立で布パンツの人は3名。他の人はハビリパンツにパットで対応している。声かけをする等さりげない誘導はしているが、自分でトイレに行く人の姿も見かけた。男性利用者が半数近いが全員トイレ座位での排泄を基本にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をするよう支援している。 ・必要な水分量がとれるよう声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・足浴、シャワー浴、清拭等、希望に応じて支援している。 ・本人の了解を得て、曜日を決めて伝えているが、希望により変更することもある。	週2回の入浴を基本にしているが、どうしても入りたいと希望する人には入浴日以外でもお風呂をすと聞いた。殆どの人が湯船でゆっくり入浴出来、冬至には柚子湯を楽しんでいる。拒否がある場合は、曜日をえたりその人に合わせた声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようにしながら休む時間を作り(昼)、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には、申し送りや記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・好きな事、やってきた事、やりたい事が行えるように声掛けや、企画を行っている。 ・誕生日には好きな物をリクエストできる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新緑、紅葉など天候に左右されるものは、タイミングを逃さないよう実施している。希望によって、散歩・ドライブ・外食へ出かけている。	天気の良い日はよく散歩に出かけており、数人が外から帰ってきた後、隣接する特定施設「蓉厚苑」に展示されている作品を見せてもらいに、利用者・職員と一緒に私達も出掛けて、作成した本人達から説明をしてもらった。フットワークの良さは相変わらずで、個別の外出支援もよくしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物はするが、お金を支払える人が今はいない。持っている人には支援できる体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・面会時にパンフレットを渡し、いつでも電話しても良い事を説明している。本人が希望される時には電話にて話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やリビングなどに手作りした作品を展示したり、季節を感じることで置ける物を置いて居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室にいるより、リビングで皆と一緒に過ごす事が多く、男性利用者もおしゃべりの輪の中において楽しく過ごしている。日頃から取り組んでいる立派な作品の数々が展示されており創作活動の活発さがよく分かるし、リビングは清潔で落ち着ける空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを置き、仲良い同士が話ができ、友達同士がお互いの部屋で話したり、一人でベッドの中で雑誌を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものをポロポロになるまで持ち安心できるようにしている。 ・リサイクルをして使用を継続する方法をとっている。	思い出や愛着のある物を持ってきてもらい、娯具や時計、家族の写真等置いて家庭に近い環境で安心して過ごせるようにしている。自分で選んだ塗り絵作品を展示し、好きなようにレイアウトしているAさんのように、その人の自主性を尊重した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・直線廊下を使い、歩行訓練や車いすの自走練習を行うなど工夫している。		